

平成28年2月25日

震災復興レポート

「被災地高校生が被災者の夢をかたちにした」

宮城県建築士会
会長 砂金隆夫

東日本大震災から5年目を直前にした2月23日。津波に浸水した石巻工業高等学校で、建築科の生徒が作成した模型を真ん中にして意見交換会を開催した。

今回の模型作成は、建築士会が学校側に提案し実現した。制作に携わった生徒は2年生・3年生の9人で、被災した生徒もおり今だに仮設住宅から通学している生徒もいる。

今回の模型製作にあたった生徒にも、震災復興に対する熱い思いがあり、被災地の建築を学ぶ高校生として住民の夢の実現に自分たちができることによって手伝いたいと話していた。

今回題材とした女川町竹浦地区は、被災前63戸の集落でしたが、全戸流失・全壊の壊滅的被害を被った。

宮城県女川町では、「女川町復興計画（離半島部高台移転の集約化）」を発表し住民に説明し、それを受け、竹浦地区住民は「竹浦復興委員会」を設立、現地高台移転を住民総意として決議した。

その後、女川町まちづくり説明会を経て、住民独自の住宅再建勉強会を住民である北目富造氏を講師とし始めた。北目氏は現地再建希望者の各戸を訪問し、各人の要望を纏め住宅再建の基本データをまとめ上げた。その資料をもとに数回の独自勉強会を重ね、景観に配慮した竹浦の集落再建に熱意をもって望むことによって、住民の合意形成に向け努力を重ねていた。

また、先進地視察に中越地震から復興した山古志村（現長岡市）へ視察を行うなど、大きな思いを持って震災復興に取り組み始めた。

24年6月「女川町住民説明会（定住促進策を提示）」の際に、説明員（町職員）から「住民が希望すれば建築・まちづくり専門家派遣を町が考慮する。」旨の発言があり、竹浦復興委員会で協議し、専門家派遣を町に要請した。

24年8月の「みやぎ復興住宅整備推進会議」において席上、女川町職員から竹浦地区への専門家派遣の正式要望がなされ、宮城県建築士会として支援を行うことを同意した。

当時、宮城県建築士会会員は復旧・復興に携わっている時期で、且つ又まちづくり専門家も少ないことから日本建築士会連合会と協働で取り組むことを決め、女川町に通知した。

住民には、三井所清典連合会会長は山古志村再建の実践者であることを説明したところ住民を大きく勇気付けることとなった

三井所会長を先導に森崎輝行（兵庫士会）連合会まちづくり委員長、住宅団地計画の専門家、宮城県建築士会が中心となって、ワークショップを重ね、25年7月に景観ルール、同年8月には標準プランと標準建設費を提案するまでにいたった。

26年には、宮城県建築士会が「住民・設計者・施工者・資材供給業者が連携」した住宅供給システムを提案した。同年末には景観ルールによる住宅建設を促進させるため「女川町竹浦地区復興まちづくり協議会」の必要性から、27年1月に協議会設立に至った。

その後、各戸の設計担当者を宮城県建築士会石巻支部に依頼、数回の個別住宅相談を重ねて概ね基本設計が終了した。

しかし、住民は図面提示しても実感として思い描くことが出来ないことから、石巻工業高等学校の畠山弘幸教諭に模型製作を持ちかけた。快諾を得て、担当教諭と数名の生徒を造成途中の現地に案内し、造成地周囲の景観と、造成地からみた太平洋の景色を体感してもらった。

女川町の宅地造成図面と住宅基本設計図面を基に作成した模型は、高台移転事業にかかる造成および予定建築物を配置した模型です。

まだ、70%位の完成度ですが携わった3年生の卒業前に住民と高校生の交換会を計画し実現した。

生徒たちの制作時の想いの発言、転居予定者のコミュニティ創生に対する考え、設計者の住宅全般に対する考えを基におおいに討論を行った。

模型を目の当たりにした被災者（参加者）は、夢にまで見た新しい竹浦の集落の景色や自宅の状態に感動し、当日参加できなかった住民のため、後日改めて模型の見学会を開催できるよう建築士会に要望が出された。建築士としても模型を真ん中にしてワークショップを開催するよう準備をしていきたい。

昨年金沢での全国大会終了後、経過を三井所会長に説明、会長より在校生への特別授業の申し出があり、高校と協議した結果意見交換会の前段として授業を行った。

三井所会長からは、「みんなでつくる建築づくり・まちづくり 連携とテーマ」をタイトルとした講演でした。

石巻工業高等学校建築科は、連合会主催建築甲子園に2年連続参加し、奨励賞を受賞しています。当日三井所会長より直に贈呈して頂き、生徒・教諭職員が大いに高揚していた。

竹浦は本年8月に土地の供給が始まり、いよいよ建築工事が着工します。宮城県建築士会は、住民とともに工事を進め、来年には賑わいの戻った「女川町竹浦浜」の実現に協力を続行する。

三井所会長による特別授業





高台移転意見交換会













建築甲子園奨励賞授与式



